

# 交差点事故テーマに議論

## 合同研修 独自スローガン発表

武州運輸倉庫

【東京】武州運輸倉庫(伊藤秋男社長、東京都江戸川区)は21日、東京・大利根合同ドライバー研修会を開いた。東京営業所(同)と大利根センター(埼玉県加須市)のドライバーらが一堂に会し、事前に与えられたテーマに沿ってグループ討議したほか、伊藤社長は今年度の売り上げを20億円に引き上げる構想を発表した。(沢田 顕嗣)

研修会は交通事故の未然防止と危険予知トレーニング(KYT)を主眼に年2回(2、7月)のペースで企画しており、協力会社4社(丸山運輸、本沢運送、小原運輸倉庫、SASロジスティクス)も参加。協力会社のドライバー3人を含む49人の受講者を7グループに分け、大利根センターのドライバーが今月18日に



各グループがスローガンを発表

目視ヨシなどを発表した。伊藤氏は「ことし(1月以降)は2件の交差点事故が発生している。交差点内はよほどのことがないと過失割合が大きい。横断歩道

の手前ではいったん停止してほしい」と要請。経営概況については「2012年3月期の売り上げは17億6500万円と増収を記録した。13年3月期は20億円の突破を目指していく。第1四半期は好調に推移しており、まずは上期目標の8億8700万円はクリアした」と意気込みを述べた。今年度は経営方針に①売り上げ拡大②コスト削減③物流品質の維持・向上④企業基盤の強化——を盛り込んだ。新規顧客の獲得に向け営業情報提供制度を新設したほか、化粧品と医薬部外品の製造許可の取得も予定。調達物流の受託も一段と強化していく。コストの削減は改善提案活動(1件につき最低500円、最大1500円を支給)の活性化により推進。併せて、社内配車担当者会議などを通じ国内物流ネットワークの強化を図る。更に、この日はエコドライブなどに優れたベストドライバー3人を表彰すると共に、初めて設けた永年無事故表彰(5年)13人も顕彰した。このほか、埼玉県加須警察署の大槻清交通課長が安全講話を行い、損保ジャパンの担当者は「運送事業者の事故傾向と対策について」と題して話した。